

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会において自立できる生徒を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

- 1 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する。
- 2 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する。
- 3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- 4 生徒を支援・指導する力を教職員がより高め、生徒が信頼して相談したいと思える学校（心の居場所）づくりを行う。

2 中期的目標

1 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化

ア 教育相談体制の確立

- ・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。
- ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率（R01 60%・R02 95%・R03 81%）を令和6年度に90%以上とする。

イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用及び関係機関との連携

- ・支援コーディネーターを中心にSC、SSWと関係機関、教職員、保護者（生徒）の4者（5者）が有機的に連携協力できる体制づくり。
- ・支援教育や生徒のコミュニケーション能力を育成する外部人材の活用および教員の校内外の研修への参加。

※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率（R01 90%・R02 75%・R03 83%）を令和6年度に90%以上にする。

※支援教育や生徒のコミュニケーション能力向上等の教員向け研修への参加者数（R01 209人・R02 70人・R03 51人）を令和6年度に100人以上とする。

ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全、薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。

- ・感染症防止を含めた生徒の心身の状態を把握するために毎日健康確認を行い、生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。
- ・地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員、生徒への研修や講習を実施する。

※外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。

(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上

ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進

- ・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方などを理解させる。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる。」の肯定率（R01 72%・R02 95.2%・R03 91%）を令和6年度まで90%以上を維持する。

イ 体育や文化的行事の活性化

- ・行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行うことにより、達成感、自己肯定感を高める。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率（R01 60%・R02 100%・R03 91%）を令和6年度まで90%以上を維持する。

(3) 学校運営上で必要な情報の共有と外部への情報発信

ア 教員間の意思の疎通を高め、活発な議論と情報共有を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。

※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率（R01 63%・R02 75%・R03 61%）を令和6年度には80%以上にする。

イ 学校ホームページによる積極的な情報発信を行う。特に保護者については学校ホームページとメール配信を連動させて積極的な情報提供を行う。

2 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み

ア わかる授業の推進と基礎学力の定着

- ・0限目授業と西野田クエストをさらに充実発展させる。

（西野田クエスト：総合的な探究の時間において、個々の学習進度に応じて発展的に学習課題を設定し、基礎学力の向上へ主体的に学ぶ力を育成する本校独自の取組み）

※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率（R01 64%・R02 91%・R03 91%）を令和6年度まで90%以上を維持する。

イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善へ取り組む

- ・観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、PDCAサイクルを確立し、授業改善を推進する。

※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率（R01 90%・R02 90%・R03 72%）を令和6年度には90%以上にする。

ウ 1人1台の端末の活用により、授業改善をさらに推進する。

- ・生徒の興味・関心を高め、協働的な学びを支援する1人1台の端末を活用した授業やグループウェア活用のための研修、研究授業を実施し教員のICT活用力を高める。

※教員向け学校教育自己診断の項目「コンピューター（タブレット端末）等のICT機器が授業などで活用されている。」の肯定率（R01 90%・R02 100%・R03 100%）を令和6年度まで90%以上を維持する。

エ 資格取得の奨励と支援

- ・生徒の学習意欲の向上に向けての西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援を行う。

※工業系の2系列を持つ総合学科高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援体制を充実し、資格取得に挑戦する生徒の増員とその合格率（R01 100%・R02 67%・R03 100%）を令和6年度まで80%以上を維持する。

3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。

ア キャリア教育の実施

- ・通用門でのあいさつなど、教職員の積極的な関わりや清掃活動など地域との交流を通して、社会人としてのマナーや規範意識を養う。
- ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。
- ・系統立てたキャリア教育として総合的な探究の時間やホームルームを活用し、道徳や人権等の指導内容の充実を図る。
- ・進路担当者や学級担任等のキャリアコーディネーターを活用し、生徒の進路ニーズの把握に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率（R01 80%・R02 86%・R03 81%）を令和6年度まで80%以上を維持する。

※卒業時の進路未決定生徒、毎年0人をめざす。

(2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置者の減少

ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化

- ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による共有した情報に基づき、生徒に寄り添い、課題を抱えた生徒の出席率の向上を図る。
- ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。

※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。生徒指導的中学校訪問回数（・R01 16回・R02 6回・R03 16回）について、しっかりと連携がとれる回数を令和6年度まで維持する。

※当年度の出席率平均（R01 86%・R02 84%・R03 85%）、を令和6年度まで80%以上を維持する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理

ア ノークラブデー、ノー残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用

- ・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【教員】学習指導に関する評価は高くなっており、少人数指導を生かした個々の生徒に合わせた指導が定着してきている。「教職員の適正能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ教職員が意欲的に取り組める環境である」は、3年連続で低い評価となっている</p>	<p>【第1回（6/17実施）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、1年生から導入されている観点別評価については、先生方についても大変だと思うが、いろいろ取り組んでいただき良いものにしてほしい ・入学者数が少ないのは気になるが、進級・卒業率が80%を超えているのは素晴らしい。

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

<p>(R2:45%→R3:39%→R4:42%) ことをはじめとして、学校運営や教職員間の関係、組織的課題に関する項目の評価が低い。学校運営方針をより明確にし、校務分担の見直しや、同僚性や協同性、コミュニケーションを高めるための取り組みが必要である。</p> <p>【生徒】すべての項目で80%以上の高い評価であるが、教員との関係性や授業以外の教育活動において、さらなる取り組みを進めていきたい。</p> <p>【保護者】多くの項目で高い評価をいただいた。回答数(3名・21%)を高めることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資格については、生徒のニーズもあり挑戦する生徒が少ないが、資格取得の必要性を十分に説明し、挑戦する生徒をぜひとも増やしてほしい。 教育相談、生徒支援については、引き続き、配慮の必要な生徒という見方で渡日生徒への日本語指導も含めて個々の生徒に合わせた対応をさらに進めていただきたい。 <p>【第2回(10/17実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート結果では、授業への肯定率は高く、ほとんどの生徒が肯定的に捉えている。在籍生徒数が減ってきていることは課題であるが、対面で教育することの大切さを大事にして先生方には頑張ってもらいたい。 生徒の出席率がH28年度に比べてここ数年向上している。現在の80%の出席率を維持する取り組みをお願いしたい。 資格取得で、電気工事士に1名が合格したことは素晴らしい。今後とも、生徒の状況に合わせた資格取得への取組みをお願いしたい。 キャリア教育では、生徒が体験できる取組みをしてもらっている。今後とも丁寧な取組みをお願いしたい。 <p>【第3回(1/26実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の進路指導は大変だと思うが、キャリアガイダンスなどでの職場体験などを通じて個々の生徒に合わせた指導を引き続きお願いしたい。 教育相談については、敷居を低くすることが大切なので生徒たちが相談に来やすい工夫をお願いしたい。 今年度の家庭訪問回数は昨年より少なくなっているが、生徒や保護者の状況に合わせた家庭との連携ができていて良い。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア 教育相談体制の確立</p> <p>イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用及び関係機関との連携</p> <p>ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。</p> <p>(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上</p> <p>ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>イ 体育や文化的行事の活性化</p> <p>(3) 学校運営上で必要な情報の共有と外部への情報発信</p> <p>ア 教員間の意思の疎通を高め、活発な議論と情報共有を行うための連絡会議等を実施する。</p> <p>イ 学校ホームページによる積極的な情報発信を行う</p>	<p>ア・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。 <p>イ・支援コーディネーターを中心にSC、SSWと関係機関、教職員、保護者(生徒)の4者(5者)が有機的に連携協力できる体制づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援教育や生徒のコミュニケーション能力を育成する外部人材の活用および教員の校内外の研修への参加。 <p>ウ・主体的に健康の保持増進に取り組むことができるように、保健や食育、安全についての情報を生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページへの掲載により発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して学ぶことができる環境を整えるために、毎日感染症の予防を含めた健康確認を行い、生徒の心身の状態を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員、生徒への研修や講習を実施する。 <p>ア・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、あいさつや時間厳守、準備・片付けなど部活動を通して集団の規律のあり方を指導する。</p> <p>イ・達成感、自己肯定感を高めるために、行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行う。</p> <p>ア・教員間の意思の疎通を高め、活発な議論を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。</p> <p>イ・学校の様々な教育活動を学校ホームページに掲載し、保護者や地域に情報を発信する。特に保護者については学校ホームページとメール配信を連動させて積極的な情報提供を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率を90%以上にする。[81%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率を90%以上にする。[83%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のコミュニケーション能力向上や支援教育等の教員向け研修への参加者数を延べ80人以上にする。[51人] <p>ウ・主体的に健康の保持増進に取り組むことができるように、保健や食育、安全についての情報を生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページの掲載を20回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康状態を把握し、保健室、学級担任との情報共有を行うために、毎日の健康チェックカードの活用を継続する。 外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。[2回] <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率を90%以上に維持する。[91%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率、90%以上を維持する。[91%]</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率を70%以上にする。[61%]</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「学校はパソコンやスマートフォンなどやインターネットで情報提供している」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p>	<p>ア・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率100%(◎)</p> <p>イ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率74%(△)</p> <p>SSWの配置が本格化した。SSW、SCとの更なる連携体制の構築を推進する必要がある。合わせて、教育相談についての生徒への周知を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け研修への参加者数 延べ112人(◎) <p>ウ・生徒、保護者に「保健だより」などの配布や学校ホームページの掲載26回(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康チェックカードを活用した授業担当者による生徒の健康状態の把握、生徒部保健係の運用による保健室と担任での情報共有を円滑に行えた。(○) 外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修実施件数 3件(○) <p>ア・「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率100%(◎)</p> <p>イ・「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率100%(◎)</p> <p>ア・「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率53%(△)</p> <p>各会議において情報伝達の要素が大きく、双方からの意見交換が不十分であった。</p> <p>イ・「学校はパソコンやスマートフォンなどやインターネットで情報提供している」の肯定率100%(◎)</p>
2 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア わかる授業の推進と基礎学力の定着</p> <p>イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進</p> <p>ウ 1人1台の端末活用により、授業改善をさらに推進する。</p> <p>エ 西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援</p>	<p>ア・タブレット端末等のICT機器の活用など、個々の生徒に応じた学習支援による「わかる授業」を推進する。また、基礎学力定着のために0時限目授業と西野田クエストの充実発展を図る。</p> <p>イ・観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、PDCAサイクルを確立し、授業改善を推進する。</p> <p>ウ・生徒の興味・関心を高め、協働的な学びを支援する1人1台の端末を活用した授業やグループウェア活用のための研修、研究授業を実施し教員のICT活用力を高める。</p> <p>エ・生徒一人ひとりの主体的な基礎学力向上への取り組みを支援し、学習意欲を高めるために、総合的な探求の時間を中心に西野田クエストを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業系の2系列を持つ総合学科高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援、指導を行う。 	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率、90%以上を維持する。[91%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率を80%以上にする。[72%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートについての振り返りシート of 全教員の提出。[100%] <p>ウ・教員向け学校教育自己診断の項目「コンピューター(タブレット端末)等のICT機器が授業などで活用されている。」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p> <p>エ・西野田クエストの延べグレードアップ率を80%以上とする。[74%]</p> <p>※延べグレードアップ率とは、主体的な基礎学力向上の取組みである西野田クエストの年3回の確認テストで、規定のポイントを取り、ランクアップした延べ生徒数を生徒数で除した値。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得に挑戦する生徒の増員及びその合格率、80%以上を維持する。[2名、100%] 	<p>ア・「授業内容はわかりやすい」の肯定率100%(◎)</p> <p>イ・「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率84%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートについての振り返りシート提出率100%(○) <p>ウ・「コンピューター(タブレット端末)等のICT機器が授業などで活用されている。」の肯定率95%(○)</p> <p>エ・西野田クエストの延べグレードアップ率55%(△)</p> <p>生徒数が少なくなったことに加え、学習面で多様な生徒の割合が増えた。そのため、生徒の基礎学力定着状況の評価方法を見直す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得に挑戦する生徒の増員及びその合格率1名100%(○) (難関資格の第2種電気工事士1名合格)

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

<p>3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。 ア キャリア教育の実施</p> <p>(2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置の減少 ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化</p>	<p>ア・生徒の社会人としてのマナーや規範意識を養うために、毎日の通用門でのあいさつなど教職員から積極的にかかわりを持つとともに、校外での清掃活動など地域との交流を行う。 ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修を実施する。 ・系統立てたキャリア教育として総合的な探究の時間やホームルームを活用し、道徳や人権等の学習を行う。 ・進路担当者や担任等のキャリアコーディネータを活用し、生徒の進路ニーズを把握し、継続したキャリア教育を行う。 ・生徒の自己肯定感を高め、進路実現に必要な力を身につけさせるために、キャリアパスポートの作成に取り組ませる。</p> <p>ア・課題を抱えた生徒の出席率の向上を図るために、出身中学校、前籍校との連携および保護者懇談、家庭訪問、電話相談により共有した情報に基づき、個々の生徒への指導、支援に取り組む。 ・学級担任を中心に欠席・遅刻の多い生徒への素早い対応を行い、生徒の状況を把握し、保護者と連携して欠席・遅刻の増加を防ぐ。 ・ケース会議を迅速に開催し、SC、SSWとの情報共有を図ることにより関係機関との連携等を含めた適切な生徒支援をおこない、中途退学者数、原級留置者数を減少させる。</p>	<p>ア・あいさつを通して、生徒と教職員の信頼関係を高めるために、始業前から終業後までの校門当番常駐体制を年間を通して継続する。 ・地域清掃を年2回以上実施する。[1回] ・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率、80%以上を維持する。[86%] ・卒業時の進路未決定者0人をめざす。[0人] ・各教科の授業、考査、HR、学校行事、特別活動等について、生徒が自分自身の目標設定と振り返りを行うためにキャリアパスポートを年間15回以上活用する。</p> <p>ア・中学校と連携がとれる訪問回数を維持する。[16回] ・家庭と連携がとれる訪問回数を維持する。[31回] ・生徒全員の出席率平均、80%以上を維持する。[85%] ・進級（卒業）率を昨年度よりも高める。[83%]</p>	<p>ア・始業前から終業後までの校門当番常駐の実施と登校生徒への挨拶指導を計画通り実施。全生徒が教員とあいさつができるようになった。(○) ・地域清掃実施回数 3回(◎) (全校生徒1回、生徒会生徒2回) ・「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率、100%(◎) ・卒業時の進路未決定者数：0人(○) ・キャリアパスポート活用回数：23回(◎) (1年：10回、2年：8回、3年：5回)</p> <p>ア・中学校訪問件数：17回(○) ・家庭訪問回数：15回(○) 回数的には昨年より少ないが、生徒数の減少、生徒状況や保護者要望により電話連絡（電話連絡回数：248回）を主とする家庭連携をおこなった。 ・生徒の出席率：82%(○) ・進級（卒業）率：81%(○) 数値としては昨年度より低くなっているが、総生徒数が少ないため、生徒一人当たりの影響が大きい。この点を考慮して評価した結果、昨年度並みを維持できているとした。</p>
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理</p>	<p>ア・ノークラブデー、全校一斉定時退庁日の実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用 ・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。</p>	<p>ア・全教職員の年間1人当たりの平均時間外勤務時間について年間45時間未満を維持する。[36時間23分]</p>	<p>ア・全教職員の年間1人当たりの平均時間外在・校時間：54時間00分(△) ・コロナ禍により制限されていた学校行事等が通常化し、時間外在・校時間が増加した。 ・実績値は、関係法令の基準（450時間）からは十分に低い、目標は未達。</p>